

◎特集1 / 「県立科学館リニューアルオープンのお知らせと学習利用案内」について

◎特集2 / 「初めての共同特別展 くじらくもからチックタックまで」について

- 「いきいき教育地域人材活用推進事業」の紹介
- WRO（世界ロボットコンテスト）国際大会出場報告
- 障害のある子どもの就学指導について
- 平成23年度山梨県公立高等学校入学者選抜の基本事項について
- 生涯学習ボランティアバンク（人材バンク）の活用を
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / クリスタル・ミュージアム、清里フォトアートミュージアム
- らくがき 県立身延高等学校 長田 猛教諭
県立わかば支援学校 村上 里教諭
- 博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト
- 学校紹介 / 大月市立梁川小学校、県立甲府昭和高等学校
- 総合教育センター情報 / 特別支援教育の充実を目指して
- 新教育委員が就任
- 文化財活用研修と各種事業の紹介
- 県立図書館 / 「レファレンスの道宝箱 城郭について調べる」
- 山梨の文化財 / 県指定有形文化財（考古資料）甲府城跡出土飾瓦
- 主な行事予定



特集1

県立科学館リニューアルオープンのお知らせと学習利用案内

— 社会教育課 —

平成十年七月の開館以来、児童・生徒をはじめとする多くの皆様に親しまれてきた山梨県立科学館が、三月二十日にリニューアルオープンしました。

このリニューアルにより、スペースシアターには、次世代型最新鋭プラネタリウムである「プレアデスシステム」が全国ではじめて導入されたほか、大きなシャボン膜の中に入ることができる「スーパーシャボンカーテン」やマイナス十九度の世界を体験できる「ひえひえワールド」など、四つの新しい展示物がお目見えしました。

《新しい宇宙観を生み出す

最新鋭プラネタリウムシステム》

スペースシアターには、次世代型最新鋭プラネタリウムである「プレアデスシステム」が、全国ではじめて導入されました。「プレアデスシステム」は、光学式プラネタリウム「MEGASTAR・II A Kaisei」と、二つのデジタルプラネタリウム「ステラドームプロ」「ユニビュー」が、連動して動くことで、地球から眺める美しい星空から、宇宙の果てまで、時空を超えた自由自在な旅をすることが可能なシステムです。この旅は、人々に「地球上に生きる奇跡」そして「心の深い宇宙」に気づかせてくれるでしょう。



ドームスクリーンにひろがるユニビューの映像（地球磁気圏と人工衛星軌道）
撮影：三好心

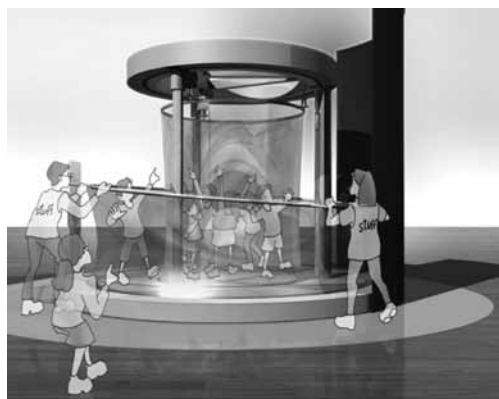
《科学を楽しく学ぶことのできる

体験型展示物が登場》

● スーパーシャボンカーテン

きらきら光るシャボンに包まれる…そんな体験ができるシャボンカーテン装置が新たにお目見えしました。

一人で体験する「一人用シャボン装置」と、家族や友達と一緒に体験できる直径三・五メートルの国内最大級「巨大シャボンカーテン装置」の二種類があります。シャボンの内側からの風景を観察することで、いろいろな不思議を発見できます。



スーパーシャボンカーテン

● ひえひえワールド

地球の生命が生存するのに適した気温を保っている温室効果ガス。「温室効果ガスがない地球はどんなに寒いのか（マイナス十九度）」を体験することで、温室効果ガスの恩恵を知ることができる部屋が登場しました。

しかし、実際には、近年温室効果ガスの人為的な排出が増え、「地球温暖化」の原因とされています。「地球温暖化が地球環境にどのような影響をもたらすのか」などの映像も、同時に部屋の外側に設置してあるモニターで紹介されます。

● 生きている地球シアター

天・地・水平面の三つのスクリーンでは、美し

地球の生物や自然気象の他、私たち人間が引き起こしている地球規模でのさまざまな環境問題を映像で紹介します。

正面の一〇〇インチスクリーンには地球温暖化により引き起こされた現象の映像、天井のスクリーンには山梨と地球の空で起こっている気象現象、床には絶滅危惧種の動物たちのシルエツトが映し出されます。

これらの映像空間で、私たち一人ひとりが気持ち、そして問いかける「発見」と「学び」の場を演出します。

● 宇宙ステーション

国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」を模した空間が広がります。このコーナーでは宇宙という特殊な環境下で行われている実験や研究の様子や、月周回衛星「かぐや」が撮影した映像をはじめ、宇宙に関する最新映像を観ることが出来ます。

この他、宇宙服での記念撮影や無重力空間バーチャルゲームも楽しめ、宇宙への興味を誘います。

《学習利用についてのご案内》

当館では、「科学に対する関心と理解を深め、豊かな感性と創造性を育み、もって教育及び文化の発展に寄与する」という趣旨のもと、保育所・幼稚園・小中学校・高校および特殊教育諸学校の、教育課程に基づく学習利用の受け入れを行っています。

山梨県内の学校の学習利用時には、事前に「学習利用申込書（兼入館料等免除申請書）」を提出していただくことで、入館料と観覧料が原則無料

となります。（一部プラネタリウム番組と実験等の材料費は有料になります。利用の詳細については、当館ホームページをご覧くださいかお問い合わせください。）

この度のリニューアルに伴い、新しいプログラムも加わりましたので、さらなる学習利用をお待ちしています。

● プラネタリウムの学習利用について

新しいプラネタリウムでは、小学校四年及び六年、中学校の理科指導要領天文分野の内容すべてを映像として表現することが可能です。最新鋭の機器により再現された星の動きや月の満ち欠けなどをご覧いただくことができます。

そのほか、思いのままに星をつないで星座を作り、スクリーンに投影するオリジナル星座づくりや、宇宙旅行しながらの体験ができるソフトの操作体験、過去や未来の星空を自在に投影することができます。児童・生徒の成人式の日の星空といった未来の星空も投影できますので、特に二分の一成人式を迎える四年生には十年後の星空をお勧めしています。

このリニューアルにより、補聴システムや字幕投影機能が新たに加まりました。難聴の生徒さんは個々にボリュームを調整できるヘッドホーンをお貸しします。また、点字の星図や副音声もご用意できます。

● 展示室の学習利用について

学習利用で展示室を利用する際に、児童・生徒のみなさんが、展示アイテムの利用を通じて楽しく科学を体験できるよう、独自の学習シート「チ

ャレンジシート」を作成しています。「チャレンジシート」の問題は、小学校の理科・中学校の科学の単元と関連するよう作成していますので、是非ご利用ください。

● 実験工作室内の学習利用について

実験工作室では、学校では体験できない液体窒素やおいしい電気パンの実験、大人気の万華鏡や磁石を使った工作など、数々のメニューをそろえており、学年やニーズに合わせた実験、工作を行うことが出来ます。

実験メニュー

超低温の世界・・・・・・・・・・一七〇円
電気パン・・・・・・・・・・一〇〇円
光るスライム・・・・・・・・・・一〇〇円

工作メニュー

スパービー玉万華鏡・・・・一八〇円
のぼり虫・・・・・・・・・・二五〇円
スカイスクリュー・・・・・・・・二五〇円
（これらのメニューはほんの一例です。）

● サイエンスショーの学習利用について

サイエンスショーは、見て納得・満足、面白くためになる実験ショーです。約三〇分のプログラムで、学校の要望をお聞きしていますので、授業の予習、復習、応用としてもご利用頂けます。

この機会に、科学の不思議を体験してみませんか？たくさんのご利用をお待ちしております。

《電話番号》〇五五（二五四）八一五一
《HPアドレス》<http://www.kagakukan.jp/>

Pref-yamanashi.jp/web/guest/guide_study.jph

特集2

初めての共同特別展
小学校国語教科書にのった思い出のお話原画展

— 県立美術館・文学館 —

夏休みの親子向け展覧会として、小学校の国語の教科書にのった思い出のお話原画展を開催します。

美術館と文学館が共同で開催する本展では光村図書と文学館に登場したお話を中心に作品の約三〇点を選び、その挿絵原画およそ二〇〇点を紹介します。小学校の国語の教科書に掲載された物語は、挿絵と共に世代を超えて、多くの人の記憶に残っています。

展示は主に、今も掲載されている物語を選ぶため、現役小学生にでも楽しめる内容です。美術館では低学年と中学年向けの作品を展示し、文学館では高学年向けの作品、教科書の表紙の原画などを展示します。

（主な展示作品）

- 「くじらぐも」
- （作）中川李枝子・絵）柿本幸造
- 「チックとタック」
- （作）千葉省三・絵）安野光雅
- 「スーホの白い馬」
- （再話）大塚勇三・絵）赤羽末吉
- 「ごんぎつね」
- （作）新美南吉、絵）かすや昌宏
- 「白いぼうし」
- （作）あまみきみこ・絵）いわさきちひろ

■関連事業も充実！

本展は関連事業も盛りだくさんです。誰でも参加できるイベント「くじらぐもをつくろう！」「夢のうろこで龍をつくろう！」「ぐりとぐら」の作者中川李枝子先生の講演会、親子のための特別授業「おとなを休もう」、「子ども映画会」も開催します。現役の小学生も、昔小学生だった大人も、思う存分お楽しみください。

A 記念講演会「くじらぐもといっしょに」

日時 七月二十五日（日）一時半～
講師 中川李枝子（児童文学作家）
場所 文学館講堂（定員五〇〇名）

B 「教科書ができるまで&デジタル教科書体験」

日時 八月一日（日）二時半～
講師 飯田順子・森下耕治（光村図書出版株式会社）
場所 文学館研修室（一〇〇名）

内容 教科書づくりの行程や苦労話、親の小学生時代には夢にも思わなかったデジタル教科書を体験できます。

C 「おとなを休もう」（ごんぎつね）

日時 七月三十一日（土）一時半～
講師 岡村太郎（山梨大学教育人間科学部附属小学校教諭）
場所 文学館研修室（定員三〇名）

「おとなを休もう」（くじらぐも）

日時 八月十四日（土）一時半～
講師 小尾俊彦（甲府市立池田小学校教諭）
場所 美術館総合実習室（定員三〇名）

内容 ベテラン国語教師の授業が、大人も子どもも、もちろん親子でも受けられます。その後は学芸員のギャラリー・トークをお楽しみください。

D 親子ほのぼの朗読会

日時 八月二十八日（土）二時半～
朗読 溝口朗読サークル
場所 芸術の森公園内 茶室「素心庵」（定員七十五名）

内容 「にほんごであそぼ」

E 子ども映画会「ごんぎつね」など

日時 八月八日（土）一時半～
場所 文学館講堂（定員五〇〇名）
子ども映画会「スイミー」など

日時 八月二十九日（日）二時半～
場所 美術館総合実習室（定員一〇〇名）

*関連事業はすべて無料です。E以外は申し込みが必要です。美術館か文学館まで電話かファックスでお申し込みください。

開催期間 七月二十五日（日）～

八月二十九日（日）

開館時間 午前九時～午後五時
(入館は午後四時三十分まで)

休館日 八月二日、九日、二十三日

観覧料 一般 一〇〇〇円(八四〇円)

大・高生 五〇〇円(四二〇円)

中・小生 二六〇円(二二〇円)

()内は二〇名以上の団体料金、県
内宿泊者割引料金

小・中・高等・特別支援学校生は土
曜日無料

六五歳以上の方(健康保険証等持参)
は無料

障害者手帳をご持参の場合ご本人と
介護の方が一名が無料

県内の小・中・特別支援学校生は夏
休みフリーパスポートで無料

問い合わせ先

◆県立美術館

電話番号 〇五五―二二八―三三三二

FAX 〇五五―二二八―三三二四

◆県立文学館

電話番号 〇五五―二三五―八〇八〇

FAX 〇五五―二二六―九〇三二

*県内小・中学生が描いた「思い出いつばいのお話の絵」や、国語教科書の思い出を広く募集した感想文は、七月二十一日から八月二十九日まで、展示室やロビーに展示します。



「くじらぐも」作・中川李枝子 絵・柿本幸造

「いきいき教育地域人材活用推進事業」の紹介

— 義務教育課 —

1 事業の目的

これからの学校教育においては、児童・生徒の体験的な学習の充実を図り、児童生徒に「生きる力」をはぐくんでいくことが求められています。本事業は、児童・生徒がいきいきと学び、学校教育の活性化に資することを目的として、幅広い知識・経験や優れた技能をもつ、地域在住の専門家や社会人の方を学校に招いています。

ここでは、学校の年間指導計画のもと、それぞれの専門的分野の講義や実技指導などを通して、豊かな学びが実現されています。

及び特別支援学校の児童・生徒を対象に実施しています。地域に在住する様々な専門的分野で、優れた技術や専門的知識を有する人を特別非常勤講師として任命し、各教科や総合的な学習の時間、道徳、そして小学校外国語活動の授業において、各学校の特色ある授業づくりを行っています。

実際の授業では、地域の特色や特性等を生かした体験的な学習を展開しています。例えば、総合的な学習の時間における米づくりや家庭科での郷土料理づくり、音楽科における和楽器の演奏指導や小学校外国語活動のコミュニケーションなど、幅広い分野で授業が行われており、子どもたちの学びの世界が広がっています。

○平成二十一年度の実績

次の表に示されているように、百九十四校の小・中学校で、のべ四百五十名近くの講師の先生方により授業がなされています。

表：平成21年度の実績（特別支援学校を除く）

活用回数	1255回(2510時間) ※特別支援学校は、43回
のべ講師数	449名
活用学校数	194校(平成21年度)
活用校の割合	66.6%(294校中)

各学校では、講師の先生と事前綿密な打ち合わせを行い、よりよい授業づくりを目指しています。

す。そこには、普段の授業とは違った視点をもつ特色ある活動に対して、児童・生徒たちが、自ら進んで取り組み、積極的に授業を受けようとする学びの姿勢が見受けられます。

3 今後の取組について

この事業は長年にわたり継続している人気の高い事業です。今後、さらに活用する学校の割合が増え、さまざまな授業実践に取り組むことができるように内容を充実させていきます。

この事業についての実践校の様子を、以下の山梨県教育委員会のホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。

2 事業の内容

本事業は、平成九年度より行われており、本年度で十四年目を迎える事業です。県下の小・中学校

<http://www.ypec.ed.jp/>

gimukyof/

WRO (世界ロボットコンテスト) 国際大会出場報告 〈甲府工業高校〉

— 高校教育課 —

はじめに

甲府工業高校電子科では「制御に関する技術」、「通信(ネットワーク)に関する技術」、「コンピュータに関する技術」の習得を目指して日々の教育活動を行っています。この内「制御に関する技術」への取り組みとして、平成十一年度から継続的にレゴ・マインドストームを使用したロボットコンテストへの参加をしてきました。その成果として、昨年度初めて日本代表としてWRO (World Robot Olympiad) 国際大会への出場を果たすことができました。

WRO大会とは

WRO大会は自律型ロボットによるコンテストです。世界中の児童・生徒たちが、各々ロボットを製作し、プログラムにより自動制御する技術を競うコンテストです。市販ロボットキット(レゴ・マインドストーム)を利用することで、参加しやすく、科学技術を身近に体験できる場を提供するとともに、国際交流も行われています。WRO活動の目的は、教育的なロボット競技への挑戦を通じて、児童・生徒たちの創造性と問題解決能力を育成することです。

WRO2009 国際大会までの経緯

下図はWRO大会の開催イメージです。日本国内地区予選は小中高校生大会を全て含めると二十五ヶ所、七〇〇チームの参加で競われました。我が校のチームは八月五日(水)に神奈川工科大学で行われた地区予選競技会を勝ち抜き、日本決

勝大会に駒を進めました。

八月二十三日(日)に東京の科学技術館で行なわれたWRO Japan 決勝大会では、審査員特別賞と課題を全て克服したチームに与えられるパーフェクト賞を受賞し、WRO国際大会への出場権を獲得しました。

二〇〇九年度のレギュラーカテゴリー部門においては、小学生三チーム、中学生一チーム、高校生四チームが日本代表として、二〇〇九年十一月七日(土)、八日(日)に韓国浦項市の浦項工科大学で開催された国際大会に出場しました。大会には、世界二十四ヶ国から二五〇チームが参加し、熱戦が繰り広げられ、競技以外にも異文化交流を深められ、数多くの貴重な体験をすることができました。

特にアジア勢のめざましい躍進に、生徒・教員共々強い刺激を受けました。大会結果は、入賞を逃しましたが、今回の経験により国際大会に再挑戦したいという新たな気持ち湧かせるものでした。



図：WRO大会の開催イメージ
(提供：WRO Japan 実行委員会 <http://www.wroj.org/>)



ドイツ代表チームと記念撮影

おわりに

ロボット大会に参加を始めてから十一年目で、初の国際大会出場を果たしたことは、生徒たちのみならず、教員に対しても非常によい経験となるものでした。

また、県内のマスコミ各社から取材を受け、学校の広報活動としても大きな役割を果たしたと感じています。

WRO大会は当日発表されるサプライズルールがあり、生徒だけで課題を克服しなければなりません。このルールにより生徒達の本当の実力が試されます。体験活動を通じ、試行錯誤を繰り返すことで、生徒の問題解決能力、ひいては生きる力が培われるという点においても素晴らしい大会であり、今後も継続して大会へ参加したいと考えています。

障害のある子どもの就学指導について

— 新しい学校づくり推進室 —

県教育委員会では、障害のある幼児児童生徒の就学指導を円滑に進めるために、就学指導に係わる方々に向けて、「障害のある子どもの就学指導ハンドブック」(以下「ハンドブック」といいます。)を作成しました。

◆就学義務について

憲法、教育基本法及び学校教育法に基づき、保護者は、その保護する子女を九年間、小・中学校又は特別支援学校に就学させる義務を負うこととされています。

また、市町村は児童生徒を就学させるのに必要な小・中学校の設置が、都道府県は特別支援学校の設置が義務づけられています。

◆就学基準等

特別支援学校に就学する障害の程度は、学校教育法施行令第二十二條の三に定められており、特別支援学級や通級による指導の対象となる障害の種類と程度は、別途、文部科学省の通知に示されています。

これらの基準は、国が一定水準の教育を確保し、児童生徒がその障害の程度に応じて最もふさわしい教育が受けられるようにすることを目的としています。

◆市町村教育委員会の判断の重要性

平成十二年四月に施行された「地方分権の推進

を図るための関係法律の整備等に関する法律」(いわゆる地方分権一括法)により、就学事務は国の機関委任事務から市町村教育委員会が行う自治事務に変更され、市町村教育委員会は、子どもの教育について地域の実情を踏まえ、自己決定・自己責任の原則の下、就学事務を行うことになりました。

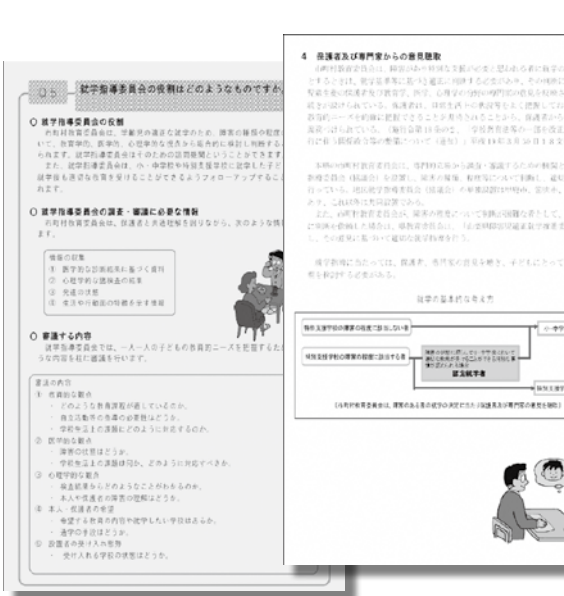
このため、学齢段階においては、市町村教育委員会が責任を持ち、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを把握し、障害についての専門家や就学指導委員会の意見を聞くなどして適切な就学指導を実施する必要があります。

◆ハンドブックについて

県教育委員会では、障害のある子どもの就学指導を適切に進めることが特別支援教育の根幹を支えることにつながることから、今回、就学指導に関わる基本的な手続きや、申請書類等を一冊のハンドブックにまとめました。

毎年、県教育委員会が主催する市町村教育委員会就学事務担当者への説明会や、学校現場の教員が就学に関する理解を深める資料として活用することを考えています。

ハンドブックの活用により、障害のある子どもの教育的ニーズに応じた就学指導が一層推進されますよう、御理解と御協力をお願いします。



※本ハンドブックは、県教育委員会ホームページに掲載してあります。

(<http://www.pref.yamanashi.jp/gakkosui/tokubetsushien/tokubetsushienkyouiku.html>)

平成二十三年度山梨県公立高等学校入学選抜の基本事項について

— 新しい学校づくり推進室 —

県教育委員会は、去る五月七日に平成二十三年度の入学選抜に関する基本事項を公表しました。

入学選抜制度の主な特徴は、次のとおりです。

- 一 住所に関係なく、どの学校にも志願できます。
- 二 「前期募集」と「後期募集」の二度の受検機会があります。
- 三 「前期募集」では、自分の興味・関心、特性を生かした受検ができます。
- 四 「後期募集」では、志願先高校に普通科、専門教育学科又は総合学科が設置されている場合、志願する学科のほかに第二希望まで志望順位を付けることができます。

平成二十三年度入学選抜の概要は次のとおりです。

一・全日制前期募集

- ① 検査方法
面接のほか、各高校が定める作文、特技、個性表現のいずれかを併せて実施します。
- ② 出願期間
平成二十三年一月十二日（水）から一月十四日（金）
- ③ 検査期日
平成二十三年一月二十五日（火）、二十六日（水）
- ④ 入学許可予定者の内定日
平成二十三年二月二日（水）

三・全日制再募集

- ① 検査方法
面接のほか、作文又は新たに行う学力検査を実施します。
- ② 出願期間
平成二十三年三月十一日（金）、三月十四日（月）、三月十五日（火）
- ③ 検査期日
平成二十三年三月十六日（水）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十三年三月十八日（金）

五・定時制課程再募集

- ① 検査方法
再募集に当たっての学力検査及び面接を実施します。
- ② 出願期間
平成二十三年三月十五日（火）から三月十八日（金）及び三月二十二日（火）
- ③ 検査期日
平成二十三年三月二十三日（水）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十三年三月二十五日（金）

二・全日制後期募集

- ① 学力検査
国語、社会、数学、理科及び英語（リスニング含む。）を実施します。
- ② 出願期間
平成二十三年二月十六日（水）から二月十八日（金）
- ③ 検査期日
平成二十三年三月三日（木）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十三年三月十一日（金）

四・定時制課程入学選抜

- ① 検査方法
学力検査及び面接を実施します。
- ② 出願期間
平成二十三年二月十六日（水）から二月十八日（金）
- ③ 検査期日
平成二十三年三月三日（木）、四日（金）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十三年三月十一日（金）

六・その他

- ① 詳細については、別に定める「平成二十三年度山梨県公立高等学校入学選抜実施要項」によります。（十月下旬公表予定）
- ② 平成二十三年度入試の募集定員は、中学校卒業予定者の進路希望調査などを考慮し、十一月上旬に決定する予定です。

- ① 検査方法
面接のほか、各高校が定める作文、特技、個性表現のいずれかを併せて実施します。
- ② 出願期間
平成二十三年一月十二日（水）から一月十四日（金）
- ③ 検査期日
平成二十三年一月二十五日（火）、二十六日（水）
- ④ 入学許可予定者の内定日
平成二十三年二月二日（水）

- ① 検査方法
面接のほか、作文又は新たに行う学力検査を実施します。
- ② 出願期間
平成二十三年三月十一日（金）、三月十四日（月）、三月十五日（火）
- ③ 検査期日
平成二十三年三月十六日（水）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十三年三月十八日（金）

- ① 検査方法
再募集に当たっての学力検査及び面接を実施します。
- ② 出願期間
平成二十三年三月十五日（火）から三月十八日（金）及び三月二十二日（火）
- ③ 検査期日
平成二十三年三月二十三日（水）
- ④ 入学許可予定者の発表
平成二十三年三月二十五日（金）

生涯学習ボランティアバンク（人材バンク）の活用を

— 社会教育課 —

生涯学習ボランティアバンクは、生涯学習を推進するための人材バンクです。「いつでも・どこでも・だれでも」楽しく有意義な学習ができるよう、地域の優れた人材に登録していただいています。

登録者の一覧は個人情報を除いて冊子に作成し、市町村・市町村教育委員会・公民館・福祉施設・小中学校等に配布され、閲覧できるようになっています。

生涯学習ボランティアバンクは、次のように大きく五つのジャンルに分かれ、さらに、それらがいくつかの小テーマに分類されています。

- ・ 家庭生活（衣食住、健康、子育て、介護、消費生活等）
- ・ 職業生活（経理・管理、農林水産業、商工業、情報処理等）
- ・ 社会生活（教育、福祉、自然・環境、地域づくり等）
- ・ スポーツ・レクリエーション（球技、野外活動、ダンス等）
- ・ 文化・教養（美術・書道、音楽、諸芸、人文・自然科学等）

生涯学習ボランティアバンクを利用したい方は、近くの教育事務所に電話で申し込みます。教育事務所は申し込みを受けて登録者に打診をし、内諾を得た後利用者へ紹介をします。紹介を受けた利用者は、登録者と直接連絡し、日時・内容等を決定します。

指導者派遣に要する経費は、原則として無料となっています。ただし、食事代・交通費・材料費・資料代及び傷害の危険が予想される場合の傷害保険等その他必要な費用については、登録者と利用者の間で相談してください。

なお、講演会や講座等のテーマ設定や講師の依頼など、生涯学習に関することなら何でも教育事務所は相談に応じます。

また、講師として登録を希望したい個人又は団体は、教育事務所に、登録申し込み書を提出します。個人又は団体が、生涯学習の指導者として適当と認められた場合、ボランティアバンクに登録されます。

生涯学習ボランティアバンクの情報は、県ホームページにアップされていますのでご覧ください。

まずは、相談を…。

ボランティアバンクの問い合わせ

- 中北教育事務所
TEL 0551-23-3008
FAX 0551-23-3013
- 峡東教育事務所
TEL 0553-20-2731
FAX 0553-20-2733
- 峡南教育事務所
TEL 0556-22-8154
FAX 0556-22-8144
- 富士・東部教育事務所
TEL 0554-45-7841
FAX 0554-45-7823
- 山梨県教育庁
社会教育課
成人・家庭教育担当
TEL 055-223-1772
FAX 055-223-1775



ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

クリスタル・ミュージアム (甲府市)

当館は水晶をはじめ様々な天然石を展示しています。大きなドーム型のアメジストや美しいカット石、山梨の造形作家による水晶の作品など天然石の魅力を十分に味わうことができます。

博物館で水晶産業の歴史を学んだあとは、無料の守護石調べがおすすめです。自分の守護石を知り身につけることで、天然石の魅力をより身近に感じることができます。

住 所 甲府市貢川1-1-7
 電話番号 055-228-7003
 担当者 渡辺 山内
 休館日 なし
 入館料 小・中学生 300円
 高校生以上 500円
 団体20名様以上2割引
 駐車場 無料(30台)
 URL <http://www.tanzawa-net.co.jp/>



清里フォトアートミュージアム (K・MoPA = ケイ・モパ) (北杜市)

当館は、写真専門の美術館として開館15周年を迎えます。世界の若い写真家を支援するため作品を購入・収蔵する「ヤング・ポートフォリオ」を継続しています。

日本文化の向上のためには幼時期から親しく芸術に触れ合うことが望ましいと言われる中、当館では小学生～大人向けに写真の原点ピンホールカメラのワークショップ(希望校には課外授業も受入可)、ガーデン散策と写真鑑賞を組み合わせた自然観察会、星をみる会など、自然科学と芸術をつなぎ、当館の基本理念「生命(いのち)あるものへの共感」を来館者とわかちあえるような展覧会とイベントの開催を目指しています。

住 所 北杜市高根町清里 3545-1222
 (長坂または須玉 I.C. より約 20 分)
 電話番号 0551-48-5599 FAX:0551-48-5445
 e-mail info@kmopa.com
 担当者 山地(主任学芸員)、田村(学芸員)
 開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)
 休館日 火曜日(7,8月は無休 祝日は開館)、展示替え期間、冬季休館
 入館料 一般800円 学生600円 中高生400円
 小学生は無料、友の会会員は無料、2～6名様までの家族は全員で1200円
 駐車場 無料(普通車45台、バス6台)
 URL <http://www.kmopa.com/>



美術館・外観(栗生明氏設計)



ヤマネの写真で知られる西村豊氏と自然観察会



ピンホールカメラ・ワークショップ北杜市内の小・中学生が参加



らくがき

「人の力」

村上 里

2004年10月新潟県中越地震が発生。刻々とニュースが報じられ、居ても立ってもいられなくなり車に野営の準備をしてボランティアに行くことにした。高速道路を降りて小千谷市へ向かう道はあちこち波打ち、山崩れで川はせき止められていた。現地に到着してボランティアの登録を待って並んでいた時にはドーンと強い余震が来て、一気に緊張が高まった。夜テントの中で横になっている時も、幾度も余震に襲われて眠れる状況ではなかった。

ボランティアでは、数人でチームを組んで集落を巡り、子どもの遊び相手や、壊れかけた台所で食器を片付ける作業、避難場所の清掃等をさせていただいた。

今、私たちの暮らしはTVや携帯電話・ゲームといったもので溢れ、必要不可欠なものとなっているが、電気・ガス・水道等のライフライン全てが遮断された世界で人の心を支えていたのは、「話し合う」「励まし合う」「笑い合う」「人」という存在であった。不安・悲しみ・喜び全ての感情を受け止め、共感し合うことができるのは「人」であり、必要不可欠であったはずの機械やものではなかったのだ。そのことに気づかされた時は、とても温かい気持ちになった。「人」の素晴らしさを実感し、本当に大切なものとは何かを考えさせられた小千谷での数日間だった。

(県立わかば支援学校)



「20年の時を越えて」

長田 猛

今から20年前、「高文連オーケストラ」の第1回定期演奏会はある私立高校のホールで開催された。それ以来紆余曲折を経ながらも「高文連オーケストラ」は今日まで運営を続けている。

「高文連オーケストラ」には様々な学校から技術的な習熟度の違う生徒が集まっている。練習が毎週土曜日の午後実施されるのも、生徒の所属校が多岐にわたっており、練習に団員が一堂に会することが容易ではないのも今も昔も変わりがない光景だ。

今も昔も変わらない光景はもう一つある。それは練習の合間に生徒達が音楽だけでなく、各々の学校の出来事や日々の出来事など色々な会話を交わしている姿。異なる学校の生徒や小学生から高校生までの幅広い年代同士の生徒との交流ができることは生徒達にとって貴重な経験になっているようだ。その姿を見ていると「高文連オーケストラ」に所属していた20年前の高校時代の記憶が沸々とわいてくる。

この春に20回目の節目となる定期演奏会を「高文連オーケストラ」は開催した。練習会場などの課題も山積するが、次の20年に向けて団員共々歩んでいきたい。

(県立身延高等学校)



博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト

～夏休みの自由研究は、博物館がお助け！～

県立博物館

夏休みの宿題の中でも自由研究は、子どもたちだけでなく、お家の方や先生方にとってもやっかいな宿題のひとつかもしれません。「何を調べたらいいか思いつかない」とか「調べ方がわからない」などの子どもたち自身の悩みや、「アドバイスが難しい」といった指導する側の悩みが尽きないことでしょう。

そこで活用していただきたいのが博物館施設です。県内には美術、歴史、科学、自然など様々な分野の博物館施設があります。展示や解説を見ながら自由研究のテーマを探ってみるといいと思います。館内の図書室で調べたり、専門職員に相談してみるのもいいでしょう。



昨年の「夏プロ」会場の様子

一度にたくさんの博物館施設の内容を知りたいという人には「夏休み自由研究プロジェクト」(詳細下記)がおすすめです。県内の博物館施設が集まってワークショップを開催し、自由研究や工作のヒントを提供しています。

さらに、今年からは「夏休みなんでも質問箱」も開設され、子どもたちの質問に博物館が答えます。実施の詳細は、7月に県内全小中学校に配布する「『交い』特別号」をご覧ください。自由研究で困ったら博物館へ。児童生徒のみならず先生方のお力になれると思います。

「夏休み自由研究プロジェクト」

日時：平成22年7月19日(月・海の日)
午後1時30分～午後4時30分

場所：アイメッセ山梨 展示場
(山梨県甲府市大津町2192-8)

内容：県内の博物館・美術館が集まって、自由研究や工作のヒントを提供します。参加館は、約20館です(予定)。

申込み：不要

参加費：無料 ※各館の実施内容により、材料費が必要なブースもあります。

地域人材と体験活動を取り入れた教育実践

～主体的に活動する「かしこい子」の育成をめざして～ 大月市立梁川小学校

本校は、大月市の最も東にある全校児童 34 名の小学校です。山や川などの豊かな自然環境と地域の方々の温かい人柄にふれながら子どもたちは元気に育っています。

「かしこい子」の育成をめざして、児童会活動、学校行事、校内研究に取り組んでいます。地域の方を講師として招き、畑を使った栽培活動などの体験活動を充実させています。

◇「大月市をアピールしよう」（5年生の実践）

地域にある倉岳山や大月市の郷土料理「おつけだんご」の魅力を保護者や地域の方に伝えました。また、講師と

して地域の方を招いて登山をしたり、おかぼ（畑でできる稲）を育て、粉にして「おつけだんご」にしたりしました。学んだことや経験したことをパンフレットにして、駅や地域の商店に置きました。子どもたちは地域の魅力を再発見し、愛着がもてたようです。

◇「学習発表会」（12月5日）

毎年12月に生活科や総合的な学習の時間を使って発表会をしています。保護者や地域の方をお客さんとして招き、クイズや実験、制作などを楽しんでもらいながら学習の成果を紹介しています。子どもたち自らの工夫が見られ、来客者に好評です。



倉岳山登山口にて



学習発表会の様子

学力向上プロジェクト

「STEP100」(Showa Total Education Project 100) 甲府昭和高等学校

<校訓> 『自主創造』を校訓とし、文武両道を目指し多くの生徒が部活動に熱心に取り組んでいる活気のある学校です。“さわやか教育”をモットーにさわやかな挨拶・さわやかな服装を心掛けています。校内には生徒同士の挨拶の声や先生と生徒との挨拶の音が響き渡ります。

< STEP100 (Showa Total Education Project 100) >

2007年度から、授業力の向上を図り生徒の学力向上を目指したステップ100のプロジェクトに取り組んでいます。その目標として「将来を見据えた進路実現に向

けて生徒全体の学力の向上を図り、計画的な部活動との両立で、高校生活の満足度100%を目指す」を実践すべく、学校全体で取り組んでいます。

<キャリア教育> 今年度、我が校では児童生徒キャリア育成推進事業の研究協力校として、「押原小学校・押原中学校との連携を通じた自己の能力と可能性を最大限に生かすための勤労観・職業観の育成」をテーマに普通科高校におけるキャリア教育の実践的研究を行っています。



登校風景



エネルギー教育見学

特別支援教育の充実を目指して

総合教育センター

相談支援部

特別支援教育担当

平成二十二年四月一日、当センターの組織再編により、「教育相談部」と「特別支援教育部」が統合し、「相談支援部」として新たなスタートを切りました。

今後は、いじめ・不登校等児童生徒を対象とする「教育相談担当」と障害等のある幼児児童生徒を対象とする「特別支援教育担当」が、それぞれの視点から対象児や保護者、学校等へ多面的な支援を行います。

通常学級における特別支援教育

山梨県教育委員会が行った小・中学校における特別支援教育に関する状況調査によると、小中学校の通常の学級に在籍している児童生徒の中で、医師等の専門家による診断等（LD、AD／HD、高機能自閉症等）を受けている児童生徒の割合は年々増加しています。特別支援学級のみならず、通常の学級においても多くの児童生徒が支援を求めている状況があり、特別支援教育をさらに充実させ、通常の学級に在籍している児童生徒へのきめ細やかな教育的支援を行っていく必要があります。また、本センター特別支援教育部が平成二十一年度に行った調査によると、通常学級において特別な支援が必要な児童生徒の在

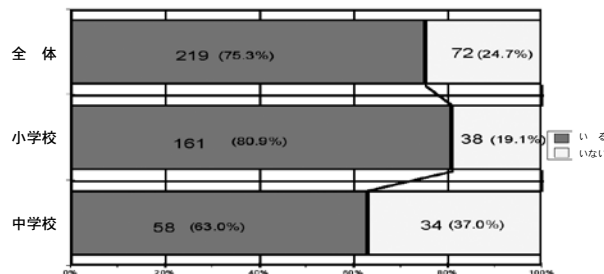
籍する学校は、図1のように全体の七五・三％です。以上のことから

も、各学校では、特別支援学級に在籍している児童生徒だけでなく、通常の学級に在籍し、特別な支援を必要とする児童生徒への対応も迫られています。しかし、

各学校では、よりよい支援の在り方を暗中模索している状況も見られ、学校における特別支援教育の中心的な組織である校内委員会のさらなる活性化が求められています。そして、校内委員会が支援の必要な児童生徒の実態を把握し、担任への支援や助言、校内体制での支援方法、外部機関との連携等、特別支援教育推進のための重要な役割を果たして機能を発揮していくことが、教育的支援の充実につながる

と考えます。

(図1) 特別な支援が必要な児童生徒のいる学校数(小・中学校比)



特別支援教育研修会

特別支援教育担当では、特別支援教育に関する基礎的、普遍的内容に加えて、今日的な課題やスキルアップに対応した研修内容を充実させるとともに、演習やグループ協議等、研修形態の工夫を行い、実践力の向上を図る研修会を企画しています。そして、管理職等の基本研修、発達障害の理解や指導、コーディネーター養成、心理検査法、障害児の心のケア、医療的ケア等、十四の研修会を実施しています。

教育相談

発達の遅れやその心配のある幼児児童生徒の保護者、教職員等に対して教育相談を行い、幼児児童生徒の調和的な発達が図られるようにしています。相談に当たるのは、小中学校や特別支援学校で子供たちと接してきた経験豊かな教員です。相談は、平日午前九時から午後五時までです。電話相談は随時、来所相談については電話予約が必要です。特別支援教育巡回相談、巡回就学相談なども実施しています。詳しくは、総合教育センター特別支援教育担当（〇五五―二六三―四六〇六）までお問い合わせください。

● ひとこと ●

**新委員に
高野孫左エ門氏が就任**

県教育委員会では、古屋知子委員の任期満了に伴い、後任の教育委員として高野孫左エ門氏が知事から任命されました。任期は平成二十二年三月二十四日から平成二十六年三月二十三日までです。



新委員
高野孫左エ門

去る三月二十四日、横内知事より辞令を受け、教育委員の重責を担わせて頂くこととなりました。

私は創業四百四十二年目を迎えた企業（商家）の、十八代目の経営者（当主）として活動をしています。

山梨で生活をする方々に必要なものを提供させていただくことが使命である、との当社の価値観を具現することが代々の課題・役割であると考えています。

郷土山梨の持続性ある発展・成長は大きな関心事であり、鍵を握るものは「人」であることはいうまでもありません。

教育委員会はその「人」に関わる役割を担う重要な機関と理解しています。

その委員会の一員として、転換期にある社会環境下の「教育」「文化」「スポーツ」それぞれの分野に、経済人としての意識・価値観をもって臨んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

考古博物館・文化財活用研修と各種事業の紹介 県埋蔵文化財センター

■ 考古博物館・文化財活用研修（教員対象）

県埋蔵文化財センターと県立考古博物館では、博学連携のもと、総合的な学習の時間等で、より多くの学校に積極的に活用していただくため、今年度から総合教育センターの外部共催研修として「考古博物館・文化財活用研修」を8月10日（火）、12日（木）に開催いたします。

1日目は、考古博物館による施設見学、最新考古学の成果や教育プログラムなどの講義と火起こし体験を、2日目は、埋蔵文化財センターによる考古資料の取り扱いと授業での埋蔵文化財活用法などの講義と土器作り体験を行います。オプションとして3日目（18日）に土器焼きや石器作りなども行います。

2日間の研修を修了した受講者には、考古資料等の貸し出しをいつでも受けられる修了証を交付しています。

■ 発掘体験セミナー（一般対象）

身近な埋蔵文化財に対する興味と関心を深め、地域学習に活用いただけるよう、夏休み期間中など、半日単位で実際に調査を行っている遺跡で発掘体験セミナーを行っております。

■ 考古資料貸出・出前支援授業（学校対象）

授業で児童・生徒に直接さわったりすることのできる遺物貸出キットを用意しておりますので、授業等での活用をお願いいたします。また、職員が学校に出向いて火起こしや土器作り・石器作り・勾玉作りなどの体験型の授業を支援する出前支援授業も行っています。

このほかにも職場体験学習や講師の派遣なども行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

◆ お問い合わせ先 県埋蔵文化財センター

電話 055-266-3016 FAX 055-266-3882

URL: <http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>

レファレンスの道具箱 *城郭について調べる* 山梨県立図書館

☆ 日本各地の城郭を調べるには…

『国別城郭・陣屋・要害台場事典』（東京堂出版 2002）

明治維新時に存在した城郭を国別にまとめた事典です。

『日本城郭大系』全20巻（新人物往来社 1980）

小規模な城郭も「その他の城郭一覧」で網羅的に紹介しています。

☆ 城郭の構造を調べるには…

『城のつくり方図典』（小学館 2005）

城郭の内部構造や外観、石垣の様子、建造物の配置図について解説している資料です。城地の選び方をはじめ、石垣・天守・御殿などの築城技術まで詳しく解説しています。

☆ 山梨の城郭を調べるには…

『定本山梨県の城』（郷土出版社 1991）

※ 今回紹介した資料以外にも関連資料がございます。ぜひご利用ください。



山梨の文化財

県指定有形文化財（考古資料）

甲府城跡出土飾瓦（山梨県）

（平成二十二年三月三十一日指定）

甲府城は、愛宕山に隣接する一条小山と称された独立丘陵に築かれた近世城郭です。武田氏滅亡後、甲斐には豊臣秀吉の一族重臣が配置され、甲府城築城は主に浅野長政・幸長父子によって進められました。

飾瓦は、屋根の大棟の両端や側面、隅棟、唐破風などに葺かれた鬼瓦、家紋付き鬼瓦、足元瓦、板瓦、鳥衾などを指します。軒丸瓦などと比較すると、装飾性が高いことが特徴であり形状も大きいものです。中でも鬼瓦が多く、築城期の豊臣家の桐紋、浅野家の違い鷹の羽、柳沢氏の花菱などの家紋や風神を想像させる人形が施された装飾鬼瓦がみられます。また、表面には金箔や朱が施されたものもあり、織豊系城郭の特徴ともなっています。

こうした金箔付き飾瓦は城郭の中心の本丸周辺で多く出土する傾向にあり、豊臣氏支配を誇示する目的で建物に優先的に使われました。城内の建物の外観を飾る瓦は、支配者の象徴としての役割を果たしたといえます。



金箔付き鬼瓦 風神



金箔付き飾瓦 桐紋・葉

主な行事予定

県立美術館

特別展

「池田龍雄 アヴァンギャルド軌跡」

6/19～7/19

美術館・文学館共同特別展

「くじらぐもからチツクタツクまで」

7/25～8/29

小学校国語教科書にのった
思い出のお話原画展

県立博物館

シンボル展

「実在した山本菅助」

6/5～7/5

特別展

「近くて懐かしい昭和展」

7/17～8/30

県立考古博物館

夏季企画展

「縄文時代の大形土器」

7/17～9/5

県立文学館

企画展

「山崎方代展 右左口はわが帰る村」

5/15～6/27

表紙を飾る



作品タイトル

「手の中の風景」

題材名～私のとっておきの思い出～

この作品は、私の思い出の場面を表現しました。この風景は私の一番美しい場所です。

私はこの風景を一枚の絵のように感じています。こんな美しいところを忘れないように私の心にとっておきたいと思い、この作品を作りました。

パネルの奥行きは2cmです。その上半透明のビニール版をかぶせました。半透明な理由は私の手の間の（ビニールをくりぬいた）場面をより鮮明に見せるためです。また、パネルはどこまでも続く青空を感じさせるためにフレームにも空を表しました。

指導者：赤岡けさみ教諭

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html